

報道機関各位

全国で人気の巡回展が
今夏、長岡に！

長岡市教育部中央図書館長



極北の自然に魅せられた写真家の軌跡をたどる 「写真展 星野道夫」を開催します

少年の頃から北の自然に憧れ、極北の大地アラスカに生きた星野道夫（1952-1996）。亡くなって25年以上経た今も、多くの写真集やエッセイが出版され、心打つ大自然や動物の写真と美しい文章が、ファンを魅了し続けています。

このたび、栃尾美術館で「写真展 星野道夫」を開催します。星野氏が初めてアラスカに足を踏み入れた20歳の頃の貴重な資料から、取材中の事故で亡くなる直前まで撮影していたロシア・カムチャッカ半島での写真までを一望し、その足跡をたどります。

つきましては、下記のとおり概要をお知らせしますので、周知にご協力いただくとともに、ぜひ取材くださるようお願いいたします。

写真展 星野道夫 悠久の時を旅する

- 会 期** 7月6日(土)～9月8日(日)
- 会 場** 長岡市栃尾美術館（長岡市上原町1-13）
- 開館時間** 午前9時30分～午後5時（発券は午後4時30分まで）
- 休 館 日** 月曜日（祝日の場合は開館し、翌日を休館）
- 料 金** 一般700円、高校・大学生300円、小・中学生100円
未就学児無料 ※20人以上の団体料金割引あり
- 展 示 内 容**
 - 写真 約140点（予定）
 - ・第1章 生命の不思議—極北の動物たちとの出会い
 - ・第2章 アラスカに生きる一人々との出会い
 - ・第3章 季節の色—自然との出会い
 - ・第4章 森の声を聴く—神話との出会い
 - ・第5章 新しい旅—自然と人との関わりを求めて
 - 資料 約30点（予定）
星野がシシュマレフ村の村長に送った手紙、カメラほか愛用品、取材ノート、2022年に発見されたフィルム（パネル）など
- イ ベ ン ト** 星野直子氏（星野道夫事務所代表・星野道夫の妻）による講演会
「悠久の時を旅する 星野道夫が見続けた風景をたどって」
日時：8月25日（日）午後2時～午後3時30分
定員：30人（椅子席）※立ち見可
申し込み：8月8日（木）午前9時30分から下記サイトで
URL：<https://logoform.jp/form/P5EF/595998>

問い合わせ：長岡市栃尾美術館 諏佐
TEL 0258-53-6300

私はいつからか、
自分の生命と、自然とを
切り離して考えることが
できなくなっていた

写真展

星野道夫

悠久の時を旅する

Hoshino Michio The Eternal Journey

2024.7/6(土) - 9/8(日)

月曜休館（祝日の場合は開館し、翌日休館）

開館時間：午前9時30分～午後5時（発券は午後4時30分まで）

観覧料：一般 700円(550円) / 高・大学生 300円(250円) / 小・中学生 100円(50円) / 未就学児無料

※()内は、20名以上の団体料金

主催：長岡市教育委員会・長岡市 主管：長岡市栃尾美術館

協力：星野道夫事務所 企画協力：クレヴィス 協賛：新潟県文化祭

後援：新潟日報社、読売新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、長岡新聞社、栃尾タイムス社、

NHK 新潟放送局、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、

NCT、FM 新潟 77.5、FM ながおか 80.7

長岡市栃尾美術館
NAGAOKA CITY TOCHIO ART MUSEUM

〒940-0237 新潟県長岡市上の原町 1-13

TEL.0258-53-6300 FAX.0258-53-6370

https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=135



新潟県文化祭
Nipponia Niigata

ホッキョクグマ カナダ・ハドソン湾 撮影：星野道夫 © Naoko Hoshino

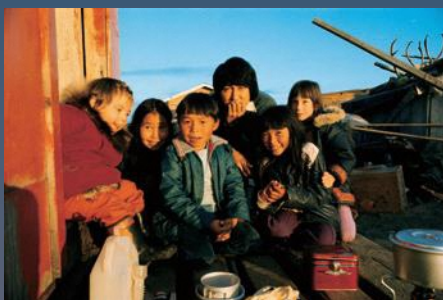
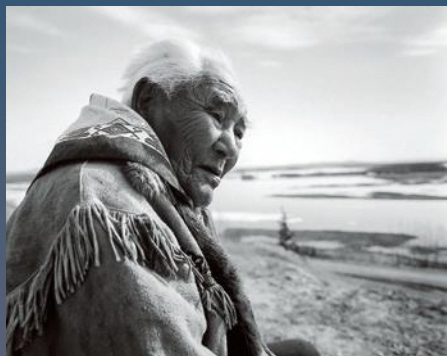
写真展

星野道夫 悠久の時を旅する

Hoshino Michio The Eternal Journey

2024.7/6(土) - 9/8(日)

少年の頃から北の自然に憧れ、極北の大地アラスカに生きた星野道夫。取材中に事故で亡くなり、25年以上を経た現在においても、心打つ大自然や動物の写真と美しい文章で、多くのファンを魅了しています。北極圏の大自然、そこに息づく野生動物や人々、そして語り継がれた神話……星野は多くの「出会い」を通じて思索を深め、写真家として成長していきました。本展では、20歳の時に初めて足を踏み入れたアラスカの村の記録から、亡くなる直前まで撮影していたロシアのカムチャツカ半島での写真までを一望します。また、20歳の時に初めてシシュマレフ村の村長に宛てて書いた手紙をはじめ、貴重な資料展示を交え、旅を終えることなく急逝した星野道夫の足跡を辿ります。未完の作品群から、「自然と人の関わり」を追い続けた星野の新たな旅に思いを馳せていただければ幸いです。なお、本展覧会は2021年から全国各地を巡回中で、当館は9館目の開催となります。



左上：ドールシープ 右上：グリスリーの親子 左中：ワイルドストロベリーの葉に初霜がおりる
 右中：アルペングローウ（山頂光）に染まる夕暮れのデナリ（マッキンレー山）デナリ国立公園
 左下：アラスカの原野に生きる狩猟民族の古老ピーター・ジョン 右下：シシュマレフ村の子どもたちとともに 1973年
 撮影：星野道夫 © Naoko Hoshino

星野道夫

(ほしのみちお)

1952年、千葉県市川市生まれ。19歳のときに目にしたエスキモーの村の空撮写真に惹かれ、村長宛に手紙を書く。20歳の夏休みにアラスカに約3カ月滞在。帰国後、アラスカへの思いが募り写真家の道を選ぶ。慶應義塾大学卒業後、動物写真家、田中光常氏の助手を2年間務める。1978年、アラスカ大学野生動物管理学部に入學。以後、アラスカの自然と人々をテーマに写真と文章で記録し発表。1996年8月、カムチャツカ半島で取材中にヒグマに襲われて急逝。アニメ賞・木村伊兵衛写真賞受賞。



関連イベント

講演会

「悠久の時を旅する 星野道夫が見続けた風景をたどって」

出演：星野直子さん（星野道夫事務所代表）
 プレトーク：山田博行さん
 （写真家・長岡造形大学デザイン学科准教授）

8月25日(日) 午後2時～3時30分

定員：30名（椅子席分）

※定員を超えた場合は立ち見となります。

申込み：8/8(木) 午前9時30分から
 インターネットにて



※参加には当日観覧券が必要

※当日当館にて書籍をお買い上げの方に、講演会后、
 星野直子さんがサインを入れてくださいます。

〈アクセス〉

- JR長岡駅大手口11番線から見附経由 栃尾車庫前行バス60分、または同駅東口4番線から新榎トンネル経由 栃尾車庫前行バス45分、「中央公園前」下車 徒歩15分、または終点「栃尾車庫前」下車 タクシーで5分
- JR長岡駅東口からタクシーで20分
- 関越自動車道 長岡ICから40分
- 北陸自動車道 中之島見附ICから30分



長岡の絵本作家 松岡達英展

9/21(土) - 11/24(日)



「でんしゃはっしゅしーず」 松岡達英 偕成社

長岡市栃尾美術館

NAGAOKA CITY TOCHIO ART MUSEUM

〒940-0237 新潟県長岡市上の原町1-13

TEL: 0258-53-6300 FAX: 0258-53-6370

https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=135

